

ダウン症候群について知っておいていただきたいこと



ダウン症候群とは？

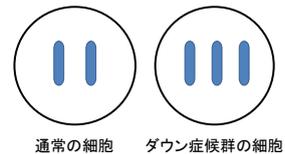
- ★ダウン症候群は今から 140 年前にイギリスの医師、ジョン・ラングドン・ダウン博士によって報告されました。彼の名前をとってダウン症候群と呼ばれています。アップダウンのダウンではありません。
- ★ダウン症候群の症状としては、次のようなことがあげられます。
 1. 筋肉が柔らかい
 2. 合併症（病気）の可能性がある（心臓病、胃や腸の病気、近視・乱視、中耳炎など）
 3. ゆっくりと発達する（一般的な発達指標の 2 倍くらい）
- ★ダウン症候群は 800 人に 1 人の割合で生まれます（埼玉県で毎年 70 人、全国で 1,000 人くらい）。どの夫婦に生まれるかはまったく確率的なものです。



ダウン症候群の原因は？

ダウン症候群の原因は染色体にあり、通常 2 本の 21 番染色体が 3 本あることによって起こります。ほとんどの場合は遺伝ではなく、お父さんの精子あるいはお母さんの卵子が作られるときの突然変異が原因です。

21 番染色体の数の変化



ダウン症候群のお子さんを育てるには次のようなことが必要です

1. ダウン症候群といっても、特別なことはありません。十分ミルクを与え、抱っこをしてよく可愛がってあげましょう。
2. 健康管理に気をつけましょう。ホームドクターを見つけましょう。
3. 予防接種はふつう通りに受けましょう。任意接種もなるべく受けましょう。
4. 合併症のチェックをしましょう（心臓、眼、耳など 外来の定期検診で）。
5. 運動発達を促しましょう。赤ちゃん体操をしましょう。
6. よく顔を見て、言葉を十分かけてあげましょう。



* 推薦図書：『ダウン症児の赤ちゃん体操』 藤田弘子著 メディカ出版

『ダウン症児すこやかノート』 藤田弘子・大橋博文編著 メディカ出版

埼玉県立小児医療センターにはダウン症候群の赤ちゃんのために次のような外来があります

1. 遺伝科外来

月曜日の午後、火曜日と金曜日の午前
定期検診で合併症のチェックをします

2. ダウン症候群総合支援外来

月 1 回、原則として第 2 木曜日午後

おもに 2 歳未満の赤ちゃんを対象として、運動・遊びなどの発達指導を中心に様々な情報提供と家族交流をすすめます。

育児や発達の心配事もご相談ください。

「なんでもノート」で承っています。

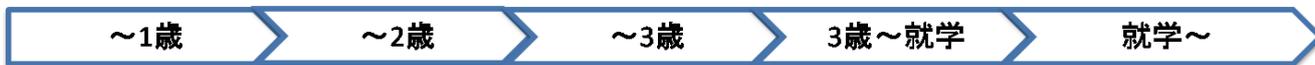
次のお子さんをお考えのお父さん、お母さん方へ
遺伝相談を行っています。遺伝科スタッフまでお声をかけて下さい。



ダウン症候群を有する子の定期的なフォローアップの流れについて



【お子さんの年齢】



【遺伝科でのフォローアップ】



2歳前後

★療育手帳(みどりの手帳)を申請しましょう。

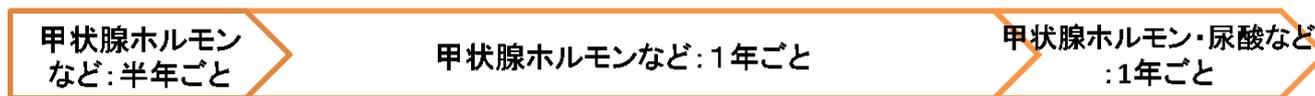
3歳

★頸椎のレントゲンを撮ります。
★扁平足が見られた場合には整形外科へ紹介します。

6歳

★必要に応じて頸椎のレントゲンを撮ります。

【血液検査によるフォローアップ】



【療育面】



《その他の科でのフォローアップ》

【眼科でのフォローアップ】



【耳鼻科でのフォローアップ】



【歯科でのフォローアップ】



《必要に応じてご紹介する科》

- 循環器科
- 整形外科